

実践発表レポート

高校英語授業における視聴覚機器および ICT 活用の実践

甲府第一高校 石川丈夫

昨年度より、本校が取り組んでいる WWL (World Wide Learning) の一環で、海外提携校とのオンライン連携授業を行っております。その授業を通しての様々な機器やツールの活用事例を報告させていただきます。

1. 授業実践の背景

本校が取り組んでいる、WWL 事業は、SGH (Super Global High school) の後継事業であり、国内外の大学、企業、国際機関と高校生へ高度な学びを提供する仕組み (AL ネットワーク) の形成し、世界で活躍できるイノベーティブなグローバル人材を育成することを目的としています。AL ネットワークの中では、授業のプランニングや実践方法などを視聴覚機器や ICT 機器の活用を含めたツールやノウハウを共有し、より良い学習環境の提供を目指しています。

2. 使用機器・ツール

1. Zoom

- 授業全体のコミュニケーションツールとして使用。
- グループ学習や生徒同士の交流のためにブレイクアウトルーム機能を活用。

2. ヘッドセット

- 生徒は個々がヘッドセットを使用し、グループ活動では、全員参加型の学習環境を整備。

3. 会議用スピーカーセット

- 指向性のあるマイクの使用により、オンライン接続による講義型の授業において、教室内の生徒とオンラインで参加の生徒或いは講師のインタラクションが常に可能。

4. Padlet

- 生徒間の意見交換を支援するためのオンラインツールとして活用。
- 授業内でのアイデア共有や議論の場を提供。

5. Mentimeter

- 生徒の意見をその場で終始グラフ化。意見の集約や生徒の理解の助けに。

3. 授業実践の概要

授業の前半では、生徒たちが事前に準備したトピックについて海外の生徒と意見を交換しました。Zoom のブレイクアウトルーム機能を活用し、少人数でのディスカッションを実施。これにより、生徒たちは互いの意見に耳を傾け、異文化理解を深める機会を得ることができました。後半では Padlet を使い、各グループで話し合った内容を共有し、全体で議論を深めました。

4. 成果と課題

4-1. 成果

- **教育機会の拡大**

Zoom のようなコミュニケーションツールを活用することで、地理的に離れた学校とも容易に交流が可能になり、生徒に普段得られない貴重な経験を提供できました。

- **参加型授業の実現**

ブレイクアウトルームを利用することで、双方向性や参加型の授業を実現でき、生徒の主体的な学びを促進しました。

4-2. 課題

- **音響環境の整備**

音声が反響しないよう工夫する必要があり、会議用スピーカーやマイクの配置に苦労しました。

- **ネットワーク環境の安定性**

安定したネットワーク環境が必須であり、通信状況の影響を受ける場面がありました。

5. 今後の展望

BYOD (Bring Your Own Device) や、多様な学習ツールを有効活用することで、生徒の興味・関心を引き出し、より深い理解を促す授業が可能になります。また、今回の実践で得られた経験を活かし、ICT を活用した授業のさらなる発展を目指していきたいと考えています。